

○問題一 解答

問一 ア 代償 イ 担 ウ 両刃 エ 畏怖 オ 転

問二 自分のこづかいで買う

問三 そこで「わ

問四 (日常生活のなかにある)「わからないもの」を「わかった気にさせ」るために日常生活を規制していく機能。

問五 玩具 と 呪具

問六 見なれた日常生活の外側を、モノをおとして一瞬間見る という体験。

問七 A イ B エ C オ D ア E ウ

問八 最初 同じものを 最後 に見える。

問九 おもちゃを通して「見慣れた」日常の外部との接点が用意され、その日常に貼り付いたわたしⅡ個を超えていくことができるから。

問十 ア ○ イ × ウ ○ エ ○ オ ×

○問題二 解答

問一 ア く イ きんもつ ウ どうこく エ せいぎん

問二 旅は読書と

問三 井

問四 ( 5 ) ↓ ( 4 ) ↓ ( 1 ) ↓ ( 2 ) ↓ ( 6 ) ↓ ( 3 )

問五 擬人法

問六 日本の生活にある多くの余計なものの中でどれに意味があるか、考え直す必要があるのではないかということ。

問七 砂漠に自分自身の姿を見に行く

問八 ア a イ b ウ a エ b オ a

○問題三 解答

A エ B イ C ウ D ア

1 ウ 2 ア 3 オ 4 イ

○問題一 解答

- 問一 ア 言説 イ 占拠 ウ 指標 エ 俸給 オ 補完
- 問二 1 親の目がとどくようにしたい  
2 他者関係の実質において「上滑り」である
- 問三 プライバシーの権利概念
- 問四 苦勞して獲
- 問五 子どもをへ
- 問六 1 単なる養育の対象としての子ども  
2 意図的な教育の対象としての子ども
- 問七 A 自立 B 個室 C 私室
- 問八 性別分業型の近代家族の出現により、家政と子どもの教育に関心をむける専業の母が生み出され、子どもの教育環境の整備に関心が払われるようになったから。

○問題二 解答

- 問一 ア みわく イ こ ウ そうごん エ ばんかん まんがん
- 問二 本のあり方を通して世界を見ることが
- 問三 その何者に
- 問四 A 何か B かうばしい
- 問五 万巻の書籍
- 問六 戦争の爆撃によって家屋が破壊された光景。
- 問七 エ
- 問八 紙の花粉は
- 問九 ア II III V イ V ウ IV V エ X オ I IV カ I

○問題三 解答

- |       |   |    |
|-------|---|----|
| 作家    | A | B  |
| 夏目漱石  | ウ | イカ |
| 森鷗外   | ア | エオ |
| 芥川龍之介 | イ | アウ |